[決意と祈りの総力編集]

こんな時だからこそ、自分たちの力を信じよう。
こんな時だからこそ、希望を持って前を向こう。
こんな時だからこそ、他人のためにも働こう。

未曾有の大災害で貴い命を失った方々を悼む気持ち
は日本中が共有している。今はまだ「祈りの時」であ
るというのも正論だろう。しかし、これだけの国難で
あるからなおさら、一日も早く、力強く立ち上がる勇
気と決意も必要ではないだろうか。

世界が日本を称賛している。烈震に耐えた数多の
と建物。パニックの中でも助け合って行動し、多くの
命が救われた奇跡。堪え難い苦難と悲しみの避難生活
でも、秩序と思いやりを失わない強い心。そして、幾
度となく焦土の中から蘇り、誇るべき国土と国民を育
んできた驚嘆の歴史――。

戦争で焼け野原となった東京、広島、長崎、沖縄は
じめ多くの街。大震災にすぎたにされた神戸。その
光景は、誰もがはじめは「もう二度と、あの街明かり
は戻らないだろう」と諦めかけた。しかし、わずか数
年後には、それまで以上に美しく力に満ちた街並みが

復活したのである。今、目の前にある危機も、克服で
きぬはずはない。

以下の特集で紹介するが、地震発生時に客で一杯
だったレストランには、震災後、料金を払いに戻って
くる被災者が相次いだ。並べて論じる不敬を承知でい
えば、江戸時代、明暦の大火で起きた「切り放ち」の
逸話もある。牢役人・石出帯刀は、迫り来る火の前に、
囚人たちに「必ず戻れ」と言い渡して牢を解き放つ。
数日後、全焼した牢の跡に、一人も欠けずに囚人が戻っ
てきたという有名な美談である。

日本人には、世界に誇る高いモラルと、勤勉と、忍
耐がある。もちろし、支那の歴史も、

焦土から立ち上がった私たちは、再び力強く蘇る。

心を信じよう